

3. 都市計画道路問題について、引き続き市の見解を問う

(1) 1月に開催された都主催の意見交換会について市の見解を問う

次に、都市計画道路問題について、市長の見解を伺いたいと思います。1月に都主催の、括弧付意見交換会と言わせていただきますが、これが行われました。この意見交換会は東京都の職員の発言でも成立しないということでありましたが、市もそういう見解でよろしいでしょうか。まず伺います。

○都市整備部長（東山博文） まず、意見交換会の当日の状況でございます。参加者の紹介、主催者挨拶の後、平成29年11月17日開催の意見交換会で市民から出されていた意見に対する都の見解の説明を開始したところ、市民から会議の進め方に関する意見が続出し、説明が中断したまま終了いたしました。このことから、開催はできましたが、都が目的とした整備に当たっての意見交換会には至らなかったと考えております。

○24番（森戸洋子議員） 意見交換会には至らなかったということであり、括弧付意見交換会ではありますが。しかし、東京都のホームページでは、意見交換会を開催しましたと大きく書かれているわけです。何もなかったという情報発信は事実と違うんじゃないでしょうか。市としても是正を求めていただきたいと思いますが、住民からも東京都に対し抗議文が送られています。市としても是非是正を求めていただきたいと思いますが、見解を伺います。

○都市整備部長（東山博文） 都は意見交換会を開催しましたが、都が目的とした整備に当たっての意見交換会には至らなかったとの認識でございます。ただいま議員から頂いたご意見につきましては、東京都に伝えてまいりたいと考えております。

○24番（森戸洋子議員） 東京都に伝えたいんじゃなくて、市がそういうふうにして要請してほしいということなんです。言っていることは分かりますか。伝えるだけじゃ駄目なんです。市の方で頑張っていただきたいと思うんです。市は、先日、東京都に出掛けられて、一定、意見交換会についての意見を言われております。こういうことをやられたというのは、一定、評価したいと思いますが、この行かれた位置付けはどういうものだったのか、何をどういうふう要望されてきたのか、見解を伺いたいと思います。

○都市整備部長（東山博文） 東京都に行ってきたときの内容でございます。平成30年2月9日金曜日に都庁に出向き、建設局の担当者を訪問した際、市から都に対して質問や要望を伝えておりますが、主な内容につきましては、意見交換会と説明会についてうまく成立させてほしいということと、意見交換会、3回目を開催し、説明しておかないと、賛成者の理解も得られなくなり、説明会がもっと困難が想定される、意見交換会を予定しないかという要望や、意見交換会の入口でつまづいている、都市整備局が一度出席して、説明することはできないかという要請をしております。

○24番（森戸洋子議員） 要請はしたということですが、お伺いを立てながら要請しているということではないかなというふうに思います。非常に市の方も及び腰になっていらっしゃるんじゃないでしょうか。括弧付意見交換会が2回行われ、その中で相当な市民の意見が出されています。私も会議録を読ませていただきました。両日とも日程の調整がつかず、参加できなかったわけですが、その点からいえば、もう少し市として明確に要請をしていただきたいと思います。

3月25日、26日の説明会の開催なんですけど、この意向は東京都は変わらないということですが、延期するように要請すべきではないかと思うんですが、そういうことは考えていないんでしょうか。課長でも構いませんので、ご答弁を頂ければありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

○都市計画課長（西川秀夫） それでは、説明会の日程の変更についてでございますが、2月9日に東京都の方にお邪魔した中では、説明会の日程につきましては今までの発表どおり行うということで聞いてございます。

（2）なぜ道路計画が必要なのか？の議論がされないまま、事業に入ることはやめるよう、市は東京都に要請すべきではないか。

○24番（森戸洋子議員） 東京都も相当強固であります。大変遺憾な思いをしています。

次に、（2）なぜ道路計画が必要なのかの議論がなされないままに、事業に入ることはやめるように要請をしていただけないかということですが、その点については市としてどういうふうに考えていらっしゃるのか、見解を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○都市整備部長（東山博文） 先ほどの答弁と重なりますけれども、平成30年2月9日金曜日に都庁に出向き、建設局の担当者を訪問した際、都市整備局の出席について話をしております。その際、市からの、意見交換会の入口でつまづいている、都市整備局が一度出席して、説明することはできないかという要請に対しまして、東京都の方では、都は都市整備局の参加の予定はない、都市整備局との情報共有は行っているとの回答でございました。

（3）道路の整備と自然環境を守ることは矛盾する。地域のコミュニティを壊す計画を住民は求めている。根本的に見直すことを再度求める

○24番（森戸洋子議員） 今、そういう回答を頂きまして、このことも大変遺憾であると思います。

環境を守る方策について、東京都は括弧付意見交換会で説明をされなかったけれども、一定、資料などがありました。私たち議員にも配られていますが、道路の整備と環境を守るということは非常に矛盾すると思います。一つは、東京都は橋りょうの図面を持ち出してきました。杭を打たなければ、これはできないわけですが、景観を壊すだけでなく、崖線に杭を打つことになると、地下水にも影響するのではないかと思います。その点でどうか。

それから、地下に道路を造るという案もありますが、側道を造るようになるので、18メートルの

幅では終わらなくなります。かなりの経費がかかることや、地下水を分断することになると思いませんか。そういう点について見解をまず伺います。

○都市整備部長（東山博文） 東京都のイメージ図によりますと、橋りょう形式の説明図になっておりますが、まだイメージであることから、現段階ではどのような道路構造になるかは未定でございます。今後、具体化していく段階において、自然環境に留意するなど、道路の工法及び構造について検討されていくものだと考えてございます。

それから、地下というのは多分トンネルのことかと思うんですけども、一般的にトンネル構造になる場合には、議員のご指摘のとおり、側道が必要となることから、道路幅員が広がることが考えられます。また、ある一定の深さまで道路幅員を保つためには、擁壁構造が必要になります。このことから、一定の影響が見込まれると考えますが、今後の工法等の検討結果によると考えております。

○24番（森戸洋子議員） どちらにしても、自然に大変重大な影響を与えるものだという事だと思えます。これをご覧ください。これは東中学校の50周年記念で配られたクリアファイルの写真です。こういうクリアファイルが配られて、ちょっとそれを拡大したんですが、この緑の多さに、ここが東中学校です。これが二枚橋焼却場跡地なんです。ずっとここは緑が広がっているわけです。大体、抜けるとしたら、これが栗山公園かなと思うので、いずれにしても、こういうふうに抜けるわけです。こんな緑のあるまちをそういう道路計画にしていいますかということが、今、問われているわけです。東町五丁目というのは、まちが本当に小さいところでありましてということです。したがって、ここに道路を造るといのは、まさに緑の環境を壊すことになるというのは誰が見ても明らかなんじゃないんですか。是非その点は強く求めていただきたいと思えます。

それから、東京都は広域避難場所へのアクセスが必要だと言っています。広域避難場所とは何ぞやと。これは、災害時に火災などで地域全体が危険になったときに、身を守るために一時的に避難する場所なんです。東町五丁目はこの10数年間で、市長もよくご存じだと思いますが、武蔵野公園内に階段を造っていただきました。災害が起こったときに下に下りられないかということで、私も中間点の階段について要望して、つけてもらったんです。それは災害時の避難ができる通路だということで設置していただきました。火災で地域に延焼が広がるということですが、それなら耐火建築物に各家を強化してもらうことに税金を使ってもらった方が、本当にわずかなお金でまちを守れるということなんじゃないんでしょうか。

それから、交通ネットワークについてです。今日、皆さんに資料をお渡ししています。東京都は交通センサスという調査を5年ごとに行っています。表面が連雀通りの東町2-6-4というところで、年間件数を見ていただきたいと思うんです。真ん中辺りにありますが、ピーク時が平成6年1万215台だったのが、平成27年には7,273件、70%台に落ちているんです。平成22年頃、当時の大矢都市整備部長は何ておっしゃったかという、中央線が高架化になったら車が増えるので、だから連雀通りを拡幅しなければいけないと言われたんですが、中央線を高架化しても、通過台数は増えるどころか、減っているわけです。車に乗っている人が減っている、人口減少時代に入って、住民を追い出して、道路というコンクリートを造って、住環境や自然環境を破壊することを私たち

が将来にわたって認めたら、まだまだ足りないけど、こんなにすばらしい緑がなくなるということなんです。

市長、もう一つ言うと、私は先日、夜の10時半ぐらいに農工大通りを車で通りましたら、タヌキと思われる小動物に会ったわけです。東京農工大学の南側です。それで、ちょっと車を止めて右を見ると、小さいタヌキが木陰から親ダヌキを見ているんです。私がそれをフェイスブックに上げたら、ある東町五丁目の方から、私もタヌキと子ダヌキを見ましたという人がいて、だから、深夜にそういう小動物がああ辺りを、五丁目をうろうろしているんです。国分寺崖線に帰っていつているんです。だから、そういう小動物がいるのが、この緑多い武蔵野公園、野川公園なんです、市長。というフェイスブックを上げたら、70か80ぐらい、いいねボタンが押されていましたけど、私のフェイスブックの中で一番最高です。そのぐらい小動物がいるということに関心が高い。小動物だけじゃなくて、まずは人間ですけど、人間を追い出すようなこういう計画を本当に立てていいのか、きっぱり見直しを求めているいただきたいと思うんですが、いかがでしょうか、見解を伺います。

○都市整備部長（東山博文） 私も高尾に住んでいますので、タヌキはよく目につくと、そこまでは言えませんが、この件につきましては、皆様のご意見を東京都に今後も、また私たちの気持ちも伝えてまいりたいと考えております。

○24番（森戸洋子議員） 以上で終わります。ありがとうございました。